

はじめに

「国際協力の現場で判断力と実践力を培うグローバル人材研究」を研究テーマとして活動してきた能勢高校のSGHも、5年目を迎えいよいよ最終年度となった。

この間に、地元能勢町の小中学校が統合して各1校となり、本校も豊中高校能勢分校として再編整備されることになった。すでに3年次生以外は分校生となっている。地域ではこれを契機に、小中高の一貫した教育実践として「グローバル人材の育成」をめざすことを再確認し、各々がコミュニティスクールとして地域とより密接に連携することで、地域と一体となって学校運営を行っている。

能勢高校は、「将来の国際社会を担うリーダーや能勢地域を支える有為な人材の育成をめざし、子どもたちに時代の中を力強く生き抜く力を育む」ことを学校目標とし、総合学科として、国際交流や異文化理解、農業・環境教育を重視してきた。ユネスコスクールの認定や多民族国家であるマレーシアへの修学旅行、現地姉妹校との交流による異文化理解、熱帯雨林での環境学習、モンゴルのジェンダーセンター等の支援に向けた募金・販売活動などがその軌跡である。

研究開発当初に設定したグローバル人材とは、課題認識から出発し世界的な視野で考え課題解決の全体像を把握すること、組織を機能させ個々の人材が能力を発揮できるよう組織をリードできること、そして現場の声をグローバルな世界に伝えることができることとし、その育成を図ることをねらいとした。そのうえで、マレーシアやモンゴルに係る学習や取組等を題材に、国際協力の現場で判断力と実践力を備えた人材についての学びへと発展させ、その普及を図ることを予定してきた。

本年度の3年重点分野講座では、「マレーシア『経済発展と自然破壊』－プランテーションと森林破壊－」をテーマに、マレーシア（サバ州コタキナバル市）への海外実態調査を行い、研究発表会にむけた取組の中で思考力や表現力を養った。例年通り基礎知識講座も並行させることで、重点分野講座の生徒の取組が全校生徒に還元されており、地元地域での貢献活動への参加などを通して経験値を向上させ、地域リーダーとして成長する姿が見られた。

一方、SGHには指定されていない豊中高校能勢分校の1・2年次生に対しては、SGHの取組を継承していくための仕掛け作りに力を注いだ。基本構造は、一定の成果のあった基礎知識講座と重点分野講座の並列構造は継続し、その相乗効果を活用することにした。重点分野講座のテーマは、3年生の取組を継承する「マレーシア『経済発展と自然破壊』－プランテーションと森林破壊－」と新たに設定した「地方創生『能勢版シュタットバルケを考える』－再生可能エネルギーと地方創生－」の二本立てとして、マレーシア（サラワク州）とドイツ（ブリロン市）への海外実態調査を実施した。それに合わせて基礎知識講座では、地元能勢町や能勢町教育委員会との連携講座を、地域の方々にも公開して行い、多様な人が関係する場面を創出することで、思考力や表現力の広まりと地域課題への思いの共有化を図った。さらにはその派生として、地域リーダーとして多くの場面で発表する機会をいただくことができ、英語等のプレゼンテーションだけではなく、地域のイベントや成人対象の大学校などでインタラクティブな交流の機会が生まれ、実践力の育成にもつながった。

SGHの取組の継承に一定の目途が付いてきたとの実感があることをふまえ、地域の核となる教育機関として、今後も、地域連携や地方創生に自覚と責任をもって取り組み、地域課題の解決に向けて具体的な提案と実践を行える地域リーダーの育成をめざしていきたい。長期的にはその結果として、地域を活性化していく推進役に、堅実に人材が循環されていくための供給源になっていけるよう、学校教育活動全体のブラッシュアップを図っていきたい。

校長 向井 幸一

目 次

はじめに

目次

I. 令和元年度 SGH 研究開発完了報告書	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 1
<u>SGH 研究報告 大阪府立能勢高等学校</u>		
II. 研究開発の概要	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 10
III. 令和元年度 研究開発の実施計画	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 13
SGH 全体構想図	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 15
IV. 研究開発の実施報告		
(1) スーパーグローバル (SG) 基礎知識講座	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 16
3年 SG 基礎知識講座		
(2) スーパーグローバル (SG) 重点分野講座	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 18
3年 SG 重点分野講座・重点分野特別講座		
(3) 海外実態調査	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 24
(4) 海外からの留学生とのワークショップと校外研修	・・・・・・・・	P. 27
(5) 「外国語教育」の取組み	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 31
V. 課題研究の成果発表・普及		
(1) SG 重点分野講座受講生徒：課題研究成果発表・普及	・・・・・・・・	P. 35
(2) 令和元年度 能勢高校 SGH 研究発表会	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 38
(3) 関係機関への影響・成果	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 40
(4) 国内外の大学や企業、国際機関との連携	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 40
VI. 関係資料		
(1) アンケート・分析	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 41
(2) 令和元年度 大阪府立能勢高等学校 SGH 運営指導委員会	・・	P. 50
(3) 平成 31 年度 大阪府立能勢高等学校教育課程表	・・・・・・・・	P. 53
(4) 各種報道等	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 55
<u>SGH 継承事業 研究報告 大阪府立豊中高等学校能勢分校</u>		
i. 令和元年度 研究開発の実施計画	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 60
ii. 令和元年度 研究開発の実施報告		
(1) グローカルスタディ (GS) 課題探究基礎講座	・・・・・・・・	P. 62
(2) グローカルスタディ (GS) 課題探究重点講座	・・・・・・・・	P. 66
(3) 海外実態調査	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 68
(4) 海外からの留学生とのワークショップと校外研修	・・・・・・・・	P. 73
(5) 「外国語教育」の取組み		P. 76
iii. 課題研究の成果発表・普及	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 78
iv. 平成 31 年度 大阪府立豊中高等学校能勢分校教育課程表	・・・・・・・・	P. 82
<u>SGH 課題研究成果・GS 課題研究成果</u>	・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 87

令和元年度 大阪府立能勢高等学校

I. S G H研究開発完了報告書

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所	大阪府中央区大手前2丁目
管理機関名	大阪府教育委員会
代表者名	教育長 酒井 隆行 印

令和元年度スーパーグローバルハイスクールに係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間
平成31年4月1日（契約締結日）～令和2年3月31日

2 指定校名
学校名 大阪府立能勢高等学校
学校長名 向井 幸一

3 研究開発名
「国際協力の現場で判断力と実践力を培うグローバル人材研究」

4 研究開発概要
国際協力を受ける当事者と支援する外部者の協働のあり方を理解するとともに、貧困が引き起こすストリートチルドレンの人的支援や経済的支援のあり方、経済発展の中で破壊される自然環境の保全に対する当事者と外部者との対立と調整のあり方を理解し、双方の立場に立って意見を述べることによってグローバルリーダーとしての判断力を磨く。

農業や環境学習で培った知識や技術をもとに、マレーシアやモンゴルでの支援活動や調査活動を体験し、「ストリートチルドレン解消」「フェアトレード」「ビジネスによる国際支援」「植林」「農業による自立支援」「世界の環境保全」「再生可能エネルギー」という国際協力のあり方を多角的に学び、大阪府民、能勢町民、能勢高校生、人間としてできることを考える。また、SDGsについて学びを深め、日本とマレーシアの環境問題、日本とモンゴルの貧困問題を通して能勢町版SDGsを考え、能勢町の活性化に貢献する。

さらに、国立プトラマレーシア大学、モンゴル国立大学、モンゴル教育大学、大阪大学、大阪教育大学、大阪市立大学、大阪国際大学、公立鳥取環境大学、海外姉妹校等と連携し、討議・ワークショップ等を重ねグローバルリーダーとしての実践的な力を培う。SGH継承活動についても、取組みを進めていく。

5 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①英語教育支援	→											
②連携大学による生徒の伸長の検証	→											
③運営指導委員会					○						○	
④成果の還元普及			→									
⑤指導助言	→											

(2) 実績の説明

①英語教育支援

ネイティブ英語講師を配置し、英語教育を支援。中高一貫校として1名、学校経営推進として2名の教員を加配し、能勢町立の小学校中学校と英語教育における小中高の連携を推進している。

②連携大学による生徒の伸長の検証

大阪大学、大阪教育大学より、複数年にわたる同一講師の派遣から、相対的、形成的評価また、SGH生徒の志向性、価値観、知識、遂行力等の測定評価を試みている。

③遠隔ネットシステム（ネット教室）の活用
遠隔ネットシステム（ネット教室）を導入しSGH校他との交流を多面的視点から推進している。

④運営指導委員会の開催

○運営指導委員

伊井 直比呂 大阪府立大学人間社会学部 教授
大石 なつ美 一般財団法人千里文化財団 理事兼事務局長
片寄 俊秀 NPO 法人みつや交流亭 亭主 代表理事
平岡 光生 能勢町商工会 顧問
平田 篤州 一般社団法人 檸檬新報舎 代表理事
森本 克己 大阪府教育センター 高等学校教育推進室 主任指導主事
瀧上 健一 大阪府教育センター 高等学校教育推進室 指導主事

○第1回運営指導委員会 8月31日（土） 府立能勢高等学校校長室

- ・能勢高校が能勢町の活性化の柱の一つとなる認識を能勢町行政が持つようになった。
- ・継承事業でも希望する生徒に海外を体験させてやるべきだ。
- ・文部科学省のSGH継承事業も視野に入れていきたい。
- ・SGH ニュースレター等を卒業生にも配付して、卒業生とともに取り組むのが良い。

○第2回運営指導委員会 2月15日（土）能勢町教育委員会 会議室

- ・グローバルな視点での地域活性化、グローバル人材育成を継承事業の目的とするのが良い。
- ・生徒を、地域貢献する人材、世界で活躍する人材として、一人も取り残さずに育成してほしい。
- ・発表の英語でのQ&Aで即興的な英語でのやりとりが素晴らしかった。
- ・研究発表で多岐にわたる質問、意見が出され、生徒が答える場面があったことが良かった。
- ・今後、能勢町が継承事業に関わる予定なので、SGH 課題探究の意義を引き継ぐ良い機会となる。

⑤成果の普及還元

SGH 指定校と同様に課題研究に取り組む高校や、グローバル人材の育成や海外進学に関心の高い高校を中心に、SGHに係る活動状況や情報を発信した。

⑥指導助言

研究実践の進め方、次年度の継承事業計画の作成、報告書作成など、指導助言を通年にわたって行った。

6 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施期間（平成31年4月1日～令和2年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①基礎知識講座										→		
②重点分野講座												→
③海外実態調査					→							
④国立プトラマレーシア大学 WS Sawit Kinabalu 工場他					→							
⑤海外からの留学生とのWS									→			
⑥課題研究成果発表												→
⑦研究開発成果の普及 ・遠隔ネットシステムでの発表交流 ・英語ホームページ				○		○	○	○	○			→
⑧その他 ・英語プレゼンテーション講座 ・運営指導委員会 ・生徒アンケート		○			○					○	○	→

(2) 実績の説明

令和元年度は、大阪府立能勢高等学校生徒は3年次生で、2年次生、1年次生は大阪府立豊中高等学校能勢分校生徒である。したがって、SGH 対象生徒は3年次生となり、2、1年次生はSGH 対象外生徒である。3年次生に以下のSGH の取組みを実施した。

①スーパーグローバル（SG）基礎知識講座、②スーパーグローバル（SG）重点分野講座、③海外実態調査、④国立プトラマレーシア大学、キナバル植物園、Sawit Kinabalu 工場、小農などでワークショップ、⑤海外からの留学生とのワークショップ、⑥課題成果発表会、⑦研究開発成果の普及、⑧その他

① スーパーグローバル（SG）基礎知識講座：3年次生全員（3年次生42名）

次に示す力をつけるため「総合的な学習の時間」で講座を展開するとともに、担当教科が日々の学習活動の

中でも取り組んだ。総合的にグローバルな視点から地域に貢献しようとする意欲を持つ生徒の育成をめざした。年度末に発表会を開きその成果を確認・共有した。

- ・論理的に考え表現する力
- ・データを活用し筋道を立てて整理する力
- ・グローバルな視点で課題を把握する力
- ・・・国語・英語
- ・・・数学・情報
- ・・・地歴公民・理科・家庭・農業

	3年次生全員 (42名) : 各教科・総合的な学習の時間
4～12月	各教科でのSGHの学び
5月	27日(月) 「先輩は語る」 (教育実習生 濱田理生)
6月	10日(月) 「インプロ (即興劇)」 (インプロファシリテーター 月田有香) 21日(金) 「ひとつづくり・まちづくり 高校生に期待すること」 (株) ノースプロダクション 近江正隆 ※能勢町教育委員会共催講座
7月	1日(月) 「留学生プレゼンテーション」 (留学生 オスカー)
9月	9日(月) 「旅が教えてくれること」 (農家民宿みちくさ 三上順子)
12月	23日(月) 「学習発表会」
2月	15日(土) SGH 研究発表会

② スーパーグローバル (SG) 重点分野講座：選択生徒 (3年次生8名)

3年次生では、環境に焦点を当てることで、能勢地域の環境保全の観点から地域課題にアプローチし、2年次で探究した課題とリンクさせ地域活性化に貢献する。具体的実践活動への参加や、後輩や学校外部への発信を通して、3年間の学びを深める機会とする。

3年次生 [前年度選択科目「スーパーグローバルスタディ (SGS)」 選択生徒]

課題研究テーマ：経済発展と自然破壊～マレーシア オイルパームプランテーションと森林破壊～

	3年次生8名：放課後講習、土曜日講習、土曜日等の成果発表等
4月	13日(土) 「菊炭と里山を未来につなぐ植樹会」 (大阪能勢田尻菊炭振興協議会、国土緑化推進機構)
5月	8日(水) 「SG 重点分野講座オリエンテーション」 (能勢高校 SGH 担当教諭) 15日(水) 「課題研究講座」 (能勢高校 SGH 担当教諭) 22日(水) 「バリスタから見た ドイツ人の環境問題への取り組み」 (ドイツ在住バリスタ 中村靖彦) ※能勢町連携講座 29日(水) 「課題研究講座」 (大阪市立大学 祖田亮次)
6月	5日(水) 「掛川市におけるシュタットベルケの取り組み ～再生可能エネルギーを考える～」 (静岡県掛川市 久保田崇) ※能勢町連携講座 19日(水) 「課題研究講座」 (大阪市立大学 祖田亮次) 22日(土) 「課題研究講座」 (地域再生マネージャー 斉藤俊幸) 26日(水) 「課題研究講座」 (大阪教育大学 乾陽子)
7月	3日(水) 「課題研究講座」 (能勢高校 SGH 担当教諭) 6日(土)、17日(水) 「課題研究講座」 (大阪教育大学 乾陽子) 24日(水) 「課題研究講座」 (大阪市立大学 祖田亮次)
8月	自主活動 「海外実態調査にむけて」 「海外実態調査のまとめ」
9月	8日(日) 「森の中の講演会」 (森は海の恋人 畠山重篤)
10月	7日(月) 「公立鳥取環境大学英語村、中橋研究室ゼミ参加」 (英語村スタッフ、公立鳥取環境大学 中橋文夫) 15日(火) 「サラヤ工場見学」 (サラヤ株式会社) 21日(月)、28日(月) 「課題研究講座」 (大阪教育大学 乾陽子) 9日(水)、16日(水)、23日(水) 「課題研究講座」 (能勢高校 SGH 担当教諭)
11月	13日(水) 「デザイン実習」 (大阪大学 CO デザインセンター イステッキ・ジハンギル) 27日(水) 「マレーシアのパームオイルとRSPO」 (サラヤ 小辻昌平) 6日(水)、11日(月)、25日(月) 「課題研究講座」 (能勢高校 SGH 担当教諭)
12月	19日(木) 「課題研究講座」 (大阪教育大学 乾陽子) 2日(月)、4日(水)、9日(月)、11日(水) 「課題研究講座」 (能勢高校 SGH 担当教諭)
1月	15日(水) 「課題研究講座」 (大阪教育大学 乾陽子) 9日(木)、27日(月)、29日(水) 「課題研究講座」 (能勢高校 SGH 担当教諭)
2月	3日(月)、12日(水) 「課題研究講座」 (大阪教育大学 乾陽子) 10日(月)、17日(月) 「課題研究講座」 (能勢高校 SGH 担当教諭) 15日(土) SGH 研究発表会

重点分野特別講座

	3年次生3名
全8回	5月～11月 「SGH 課題研究をキャリアに活かす」 (ライティングオフィス・トリガーワークス 松見敬彦)

上記のほか、放課後などに自主活動を行う。

③ 海外実態調査 (実施期間：8月4日(日)から8月9日(金)) SG 重点分野講座受講者3年次生4名

- ・場所：マレーシア サバ州
- ・内容と成果：地域再生マネージャー 齊藤先生、大阪市立大学地理学 祖田先生、インドネシア専門の地理学者 小泉先生の同行を得て、キナバル植物園にてキャノピーウォーク等熱帯雨林調査、Sawit Kinabalu 工場にてナーサリー（育苗所）、オイルパームプランテーション、工場見学、聞き取り調査、小農見学と聞き取り調査、農業食品工業省の訪問、国立プトラマレーシア大学でのWSなどを行った。

- ④ 国立プトラマレーシア大学、キナバル植物園、Sawit Kinabalu 工場、小農を訪問。
海外実態調査で国立プトラマレーシア大学では、教員及び学生とWSを行った。英語で課題研究発表を行い、教員・学生から評価を受けた。
- ⑤ 海外からの留学生とのワークショップ（WS）
3年次生全員を対象とし、本校を訪問する留学生との交流活動やプレゼンテーションを行うなど、共同でWSを行った。英語での実践的コミュニケーションの良い機会となっただけでなく、異文化理解やグローバルな課題を考える機会となるよう、WSにおける話題・題材を工夫した。また、英語活用の多くの実践の機会を得た。
*本校は今年度、3名の留学生を受け入れ通年にわたって交流を行った。

	内容等	場所・協力大学等	参加人数
7月1日(月)	留学生プレゼンテーション	能勢高校	43名
8月8日(木)	プトラマレーシア大学訪問・交流	プトラマレーシア大学	6名
10月5日(土)	オイスカ研修生交流カモテQ販売	能勢高校文化祭	102名
10月7日(月)	公立鳥取環境大学英語村入村体験	公立鳥取環境大学	14名
11月2日(土)	2019 草原の風モンゴル祭り	大阪市鞆公園・在大阪モンゴル国総領事館	4名
11月13日(水)	大阪大学留学生とWS	能勢高校・大阪大学	16名
通年	*本校留学生(3名)との交流	*タイ2名、モンゴル1名	102名

⑥ 課題成果発表会

課題研究の成果を発表・発信し、普及活動を行った。

実施日	場所	内容	発表人数	備考
5月26日(日)	浄るりシアター	SGH 課題研究パネル展示	2,3年16名	ピーズマーケット能勢2019
6月20日(木)	能勢中学校	課題研究プレゼンテーション	2,3年9名	能勢中学校先輩は語る
7月16日(火)	大阪大学	課題研究プレゼンテーション	2,3年7名	今岡准教授共通教育講義
8月8日(木)	プトラマレーシア大学	能勢紹介、課題研究プレゼンテーション(英語)	2,3年6名	海外実態調査
9月7日(土)	能勢高校ムースパース(SS)ネット教室	SGH 活動内容・課題研究プレゼンテーション	3年3名	豊中高校文化祭
9月8日(日)	能勢町荒木谷	課題研究プレゼンテーション	2,3年11名	森の中の講演会
10月5日(土)	能勢高校 体育館他	課題研究プレゼンテーション、パネル展示	2,3年15名	能勢高校文化祭
10月7日(月)	公立鳥取環境大学	課題研究プレゼンテーション(英語)	2,3年14名	英語村入村
10月7日(月)	公立鳥取環境大学	課題研究プレゼンテーション	2,3年14名	中橋教授講座
10月17日(木)	能勢高校SS ネット教室	課題研究プレゼンテーション(英語)	3年2名	豊中高校
10月24日(木)	能勢高校SS ネット教室	課題研究プレゼンテーション	2,3年14名	島根県立隠岐島前高校
10月26日(土)	浄るりシアター	課題研究プレゼンテーション、パネル展示	2,3年8名	能勢の高校を応援する会
11月1日(金)	ささゆり学園	海外実態調査報告(英語)・課題研究プレゼンテーション	2,3年9名	能勢地域小中高一貫教育・連携中高一貫教育研究委員会 能勢高校 SGH 中間発表会
11月9,10日	豊能町西公民館	SGH 課題研究パネル展示	3年3名	とよのまつり
12月19日(木)	能勢高校SS ネット教室	課題研究プレゼンテーション(英語)	3年2名	豊中高校
12月22日(日)	東京国際フォーラム	課題研究ポスターセッション(英語)	3年2名	SGH 全国高校生フォーラム
12月23日(月)	能勢高校視聴覚室	SG 基礎知識講座 課題研究発表	3年42名	学習発表会
2月15日(土)	浄るりシアター	課題研究プレゼンテーション(英語・日本語)	2年12名 3年4名	令和元年度能勢高校 SGH 研究発表会

⑦ 研究開発成果の普及

ア「遠隔ネットシステム(ネット教室)にて発表」

大阪府立豊中高等学校(SGH校)、島根県立隠岐島前高等学校(SGH校)、宮崎県立飯野高等学校と繋ぎ、課題研究発表及び課題研究議論を行った。

イ「本校ホームページのSGHサイトおよび英語サイトの運営」

平成27年度に創設した本校ホームページに、講座や行事等を実施後、SGHトピックスとして記事をアップデートした。また、英語版では学校紹介・教育課程等を掲載するとともに、毎月末には、SGHトピックスの英語訳をアップデートした。

⑧ その他

ア 英語プレゼンテーション講座

課題研究の内容に係る専門的な英語を学び、国際的な場において英語等で自分の考えを述べ、プレゼンテーションができる能力の養成を目的とした。

対象学年	実施回数	講師名	参加人数	備考
2、3年	5回	ナトッチー・直子(英語)、谷村博美(英語)、アニヤ・スリワ(ドイツ語)	16名	火曜日、放課後

7 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 目標の進捗状況

SG 基礎知識講座(3年次生全員受講)、SG 重点分野講座(3年次生8名受講)

NGO、企業の専門家、大阪大学、大阪教育大学、関西学院大学、公立鳥取環境大学の研究者による講義やワークショップ等を通じて、当事者と外部者の関係を理解し、解決すべきグローバルな課題、具体的な解決へのプロセスなどを学んだ。これらの活動の中で「国際協力の現場で判断力と実践力を培うグローバル人材」になるための道筋を理解させた。

- ① SG 基礎知識講座：「総合的な学習の時間」を中心に講演、WS を展開。各教科でも SGH 開発の理念に基づき授業を展開し、学年末には学年全生徒による一般公開課題研究発表会を行った。
- ② SG 重点分野講座：3年次生8名は、土曜日や放課後講習の中で講義やWS を展開。様々な分野の講師から指導を受け、課題研究を進めた。同時に、グローバルな視点から地域の課題を解決していく提案を構想した。11月の中間発表会、12月のSGH 高校生フォーラム、2月の研究発表会では、課題研究の成果を英語と日本語で発表し、全国各地、能勢町、近隣地域の方々から高い評価を得た。これらの活動により「グローバルイシューに対する当事者と外部者の対立と調整のあり方を理解し、双方の立場に立って意見を述べることにより、グローバルリーダーとしての判断する」力を養成した。

(2) 成果と評価

ア 生徒アンケートより

全生徒対象に、第1回目を令和元年5月に実施し、第2回目は、1、2年次生については令和2年2月、3年次生については令和2年1月に実施した。以下の6つの設問分野で分析及び評価を行った。

- ① 「国際意識」：国際社会で起こっている問題に興味を持つ生徒が増加した。また外国文化に興味を持つ生徒が特に3年次生で増加した。
- ② 「環境問題」：3年次生について、地球温暖化などの環境問題に興味がある生徒が増加したが、日本が環境問題解決に努力していることには否定的にとらえる生徒が増加した。
- ③ 「英語」：3年次生について、コミュニケーションスキルとしての英語をもっと伸ばしたいと考える生徒が増加した。
- ④ 「将来の勉強・留学」：1年次生で高校時代に海外留学をしたいと答えた生徒が増加した。3年次生で、大学時代に海外留学したい、将来国際的な仕事がしたいと答えた生徒が増加した。
- ⑤ 「意見発表・プレゼンテーション」：グループ活動で自分自身の考えをはっきり出せる生徒が全学年で増加した。3年次生では、人前での発表や、ICT を活用した発表が得意であると答えた生徒が大きく増加した。
- ⑥ 「その他」：全学年でボランティアに興味ある生徒が増加した。1、3年次生において、海外でのボランティア活動に興味を持つ生徒が増加した。

アンケート全体を通して、3年次生が多くの項目で肯定的回答をした。3年間のSGH の取組みが意識の変容をもたらしていると考えられる。

イ 生徒の変容

- (1) 3年次生が多くの項目で肯定的な回答をしているのは、3年間のSGH 活動で、様々な分野の講師によるワークショップや課題探究型の授業、また、モンゴル、マレーシア、鳥取県でのフィールドワークでグローバルな学びを行ってきたためだと考えられる。これらの活動の中で主体的学習が積み重ねられ、様々な課題に積極的に取り組もうとする姿勢が育成された。海外での発表を含め、英語でのプレゼンテーションの機会を増やした結果、英語に対し積極的に学ぼうという姿勢が育成された。「実用英語技能検定」を受験する生徒は、SGH 指定校になってから倍増した。2級取得者が増加し、準1級を受験している生徒もいる。

英検	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
受験者数(人)	13	12	28	24	28	21	12
合格者数(人)	4	4	6	7	13	7	5

- (2) アンケート分析④にあるように、海外留学希望が増加した。長期海外留學生徒2名(コスタリカ・マレーシア)、短期海外留學生徒4名から刺激を受けている。また、本校SGH プログラムで学び、スーパーグローバル大学(SGU) に入学し海外留学をする先輩達を見て、留学を将来計画に入れる生徒が増加した。また今年度、SGH でのAO 入試で2名の生徒が合格した(関西学院大学2名合格、進学)。

ウ 教職員・学校体制の変容

SGH 事務局とユネスコ国際交流委員会との連携が密になり、SGH の取組みをスムーズに進められるようになった。基礎知識講座では、外部講師との調整や教材の準備など、各教科とSGH 事務局が連携し、準備を進めた。

全教職員でSGHの理念を共有しており、各教科が授業内容に盛り込むなど、浸透してきている。放課後や週末のSGH講座では、全職員が順に生徒の指導に当たっている。

エ 関係機関への影響・成果

- ① 地域での里山保全活動を実践している。(公財)国土緑化推進機構「緑の基金」活動に参加し、地域での里山保全、および植樹活動に準備から参加している。
- ② 昨年度に続き、能勢町行政が本校SGHと町による地域連携講座を5回実施し、毎年連携講座を続けることとなった。
- ③ 関西テレビの報道番組で2回、本校のSGHの取組みが報道され、国内外から大きな反響があった。

8 5年間の研究開発を終えて

(1) 教育課程の研究開発の状況について

SG重点分野講座での学校設定科目「スーパーグローバルスタディ」(SGS)に倣い、2年次生で「プレ課題探究GS(グローバルスタディ)」を設定した。また、SG基礎知識講座、SG重点分野講座に倣い、3年次生全員が課題探究を進める科目「課題探究GS」を設定し、SGHでの研究開発を引き継いだ。SGHで発掘した地域や外部の団体、専門家、大学、企業などとの連携で、開発した教科内容を中心に探究を引き続き進めている。

(2) 高大接続の状況について

国内では、大阪大学、大阪教育大学、大阪市立大学、公立鳥取環境大学、大阪国際大学との連携で、課題探究や実践活動のために高大接続が続いている。海外では、プトラマレーシア大学、モンゴル国立大学、モンゴル教育大学との接続を継続している。また、新たにGSの取組みとして、フィリピンスタディツアーを実施するにあたり、フィリピンアブラ州立科学技術大学と高大接続を行う。

(3) 生徒の変化について

地域で小中学生の学習会に参加したり、小学校での社会の授業でプレゼンテーションを行ったり、地域での活動に積極的に関わることで、グローバルな課題研究がローカルな問題解決につながることを学び、将来、地域活性化に貢献したいと表明する生徒が増加した。また、将来グローバルに活躍したいと国際関係への進路を選択する生徒が増加した。英語力習得の重要性を感じ、英検取得をめざすなど、意欲のある生徒が増加し、海外留学に興味を持つ生徒も増加した。

(4) 教師の変化について

SGH指定以前から、外部講師を招聘してのグローバルイシューの学びや、留学生の受け入れ、マレーシア修学旅行などグローバルな取組みを行っており意識はあったが、ローカルな課題研究や取組みに結び付いていなかった。この5年間、全教員がSGHにかかわったことで、グローバル人材の育成に取り組むようになり、生徒への学習指導はもちろんのこと、教師自身も地域での貢献活動に変わり、グローバルな実践を行うようになった。

(5) 学校における他の要素の変化について(授業、保護者等)

各授業でSGHの課題研究や、ESD、SDGsを意識した授業が行われるようになった。

保護者や地域住民も、本校のSGHの考え方にに基づくグローバル人材育成に理解を示し、生徒の学びの場、発酵成され、SGH活動の波及効果として、地域と生徒の協働の場「能勢町未来フォーラム」と「能勢町寺子屋」が、地域住民及び保護者によって設立された。

(6) 課題や問題点について

海外調査については、より多くの生徒に体験させたかった。調査日数も限られていたことで、もう一步踏み込んだ調査ができず、帰国後のヒアリングに頼るところが多かった。

SGHの取組みへのサポートの申し出が多くあったが、活用しきれなかった。SGH継承事業である「ドイツ、日本、地域での再生可能エネルギー活用」が始まり、SGHのプログラム終了後、ドイツとの連携や交流を持続発展させる今後の取組みが課題である。

(7) 今後の持続可能性について

SGH継承事業(能勢分校1、2年生)を展開して2年めとなり、継承事業の取組みが順調に進んでいる。来年度SGH指定終了後も、同様に継承事業を続けていく。SGH継承事業を持続可能なものにするための組織作りが欠かせない。また、能勢町が本校と連携して、「再生可能エネルギー」を中心に地域活性化を図ろうとしており、これもSGH継承事業の持続可能性の大きな切り口となる。

※ SGH継承事業 豊中高校能勢分校1、2年次生の取組み(SGH対象外生徒)

能勢高校SGH活動の取組みを継承し、豊中高校能勢分校生である1年次生、2年次生を対象に、以下のような研究開発を実施した。

①グローバルスタディー(GS)課題探究基礎講座、②グローバルスタディー(GS)課題探究重点講座、③海外調査、④大学ワークショップ、⑤海外からの留学生とのワークショップ、⑥課題研究成果発表会、⑦本校との連携、⑧研究開発成果の普及に関する取組み、⑨その他

また、①②の中で能勢町教育委員会との共催の講座を2回、③のひとつであるドイツ視察に向けて能勢町と連携講座を6回行った。

① グローバルスタディー(GS)課題探究基礎講座

1年次生は「産業社会と人間」、2年次生は「総合的な学習の時間」を中心に、他の教科での日々の学習活動の取組みなどで、上記6-(2)①SG基礎知識講座を後継した展開に加え、各教科で日々の学習活動でそれぞれの力をつけた。年度末に発表会を開きその成果を確認・共有した。

外部の講師を招いた講座等として、各教科で次のように実施した。

	1年次生全員30名：各教科・産業社会と人間
6月	4日(火)「高校生ビジネスプラングランプリ エントリーに向けて」(日本政策金融公庫 石原達志) 10日(月)「能勢町にとってのSDGsとは」事前学習(能勢高校 担当教諭) 11日(火)「能勢町にとってのSDGsとは」((株)イー・コンサル 榎原友樹) ※能勢町連携講座
7月	2日(火)「ドイツ視察に向けて：シュタットバルケの取組み」 (環境省大臣官房環境計画課長 川又孝太郎) ※能勢町連携講座 18日(木)「モンゴル」(大阪大学 今岡良子)
9月	3日(火)「世界で活躍する“オイスカ”」(オイスカ関西研修センター 清水利春)
10月	3日(木)「人形浄瑠璃」(浄るりシアター 松田正弘) 17日(木)「留学生プレゼンテーション」(留学生 ナダ、フセレン) 24日(木)「国境なき医師団」(国境なき医師団 看護師 佐藤真史) 31日(木)「体験!SDGs」(箕面こどもの森学園 藤田美保)
11月	21日(木)「多様な文化を持った人々がともに暮らす地域を作るために」(箕面国際交流協会 河合大輔、野崎ターラー) 25日(月)「池田の植木産業がランドスケープデザインの世界を拓く」(公立鳥取環境大学 中橋文夫)
2月	6日(木)「学習発表会」 15日(土)SGH研究発表会

	2年次生全員30名：各教科・総合的な学習の時間
6月	3日(月)「プレゼンテーション」(留学生 オスカー、実習生 濱田理生) 21日(金)「ひとづくり・まちづくり 高校生に期待すること」(7月18日にも大人対象に行われた) (株式会社ノースプロダクション 近江正隆) ※能勢町教育委員会連携講座
7月	2日(火)「ドイツ視察に向けて：シュタットバルケの取組み」 (環境省大臣官房環境計画課長 川又孝太郎) ※能勢町連携講座 10日(水)「プレゼンテーション」(能勢高校卒業生 齊藤依乃里)
10月	17日(木)「留学生プレゼンテーション」(留学生 ナダ、フセレン) 31日(木)「体験!SDGs」(箕面こどもの森学園 藤田美保)
2月	15日(土)SGH研究発表会 26日(水)「学習発表会」

② グローカルスタディ (GS) 課題探究重点講座

2年次生は、土曜日及び放課後にGS課題探究重点講座を展開、後期にSGSの流れを汲む2年次選択科目(学校設定科目)「プレ課題探究GS」を行った。また、本校を訪れる留学生との交流や、地域、関連団体とのイベントに積極的に参加することでグローバルな課題をグローバルに考えることのできる土壌を育成した。

課題研究テーマ

- ・「経済発展と自然破壊～マレーシア オイルパームプランテーションと森林破壊～」
- ・「能勢版シュタットバルケを考える～再生可能エネルギーと地方創生～」

	2年次生12名：放課後演習、土曜日講習、プレ課題探究GS
8月	29日(木)「能勢町里山調査」(能勢町森林組合 平岡光生)
9月	11日(水)「バイオマスの考え方と炭化技術の開発」(北海道大学3回生 山内光貴) 12日(木)「能勢町長と懇談(ドイツ研修について)」 16日(月)「MSFイラクミッション報告」(国境なき医師団 看護師 佐藤真史)

他、上記6-(2)②のSG重点分野特別講座に3年次生とともに参加した。

③ 海外調査

- ・マレーシア サバ州：実施期間令和元年8月4日(日)から8月9日(金)
「プレ課題探究GS」を選択生徒2年次生2名。3年次生のSGH海外実態調査に同行した。
内容については、上記6-(2)③海外実態調査の通り。
- ・ドイツ ブリロン市：実施期間令和元年9月2日(月)から9月7日(土)
「プレ課題探究GS」を選択生徒2年次生4名
能勢町が主催したドイツ ブリロン市におけるシュタットバルケの現地調査に同行した。現地の環境対策の説明を受け、シュタットバルケの視察、ブリロンの森、周辺環境、電力パーク、工業地区などの調査。ブリロン市の高校、ギムナジウムペトロナムにて現地の高校生と2日にわたり意見交換などを行い、交流した。
- ・マレーシア サラワク州：実施期間令和2年1月17日(金)から1月19日(日)(その後修学旅行初日に合流)
「プレ課題探究GS」を選択生徒2年次生4名

サラワク州の熱帯雨林と、小農（オイルパーム個人農家）にヒアリング調査。調査後、修学旅行本隊とクアラルンプールにて合流。プトラマレーシア大学にてWS、姉妹校アスンタ高校にて一日交流会を行った。

④ 大学ワークショップ（WS）

- ・GS 課題探究重点講座：8月に海外調査にてプトラマレーシア大学を訪問し、大学教員及び学生とWSを行った。また、英語による課題研究発表を行い、指導助言を受けた。
- ・GS 課題探究基礎講座：1月に修学旅行で2年次生全員がプトラマレーシア大学を訪問し、WSを行った。また、英語による課題研究発表を行い、指導助言を受けた。

⑤ 海外からの留学生とのワークショップ

	内容等	場所・協力大学等	参加人数
6月3日（月）	留学生プレゼンテーション	能勢高校	30名
9月4日（水）、5日（木）	ギムナジウム高校（ドイツ）訪問、交流	ギムナジウム高校	4名
9月3日（火）	オイスカ研修生交流会	能勢高校	30名
10月17日（木）	留学生プレゼンテーション	能勢高校	30名
10月21日（月）	留学生プレゼンテーション	能勢高校	30名
1月20日（月）	プトラマレーシア大学訪問・交流	プトラマレーシア大学	30名
1月21日（火）	マレーシア姉妹校訪問・相互交流	マレーシア アスンタ高校	30名
通 年	*本校留学生（3名）との交流	*タイ2名、モンゴル1名	102名

他、上記6-(2)⑤において3年次生とともに参加したものもある。

⑥ 課題研究成果発表会

課題研究の成果を発表・発信し、普及活動を行った。

実施日	場所	内容	発表人数	備考
9月4日（水）	ギムナジウムペトロナム（高校）	能勢紹介、課題研究プレゼンテーション（英語）	2年4名	海外実態調査
9月5日（木）	ギムナジウムペトロナム（高校）	課題研究プレゼンテーション（英語）	2年4名	海外実態調査
9月11日（水）	能勢高校SS ネット教室	課題研究プレゼンテーション	2年4名	GS 授業山内氏交流
11月22日（金）	大阪市立咲くやこの花高校	課題研究ポスターセッション、パネル展示	2年2名	総合学科研究発表会
12月24日（火）	能勢小学校	課題研究プレゼンテーション	2年4名	小高合同職員会議
1月11日（土）	千里文化センター	課題研究プレゼンテーション、パネル展示	2年2名	千里コラボ大学校講座
1月21日（火）	マレーシア姉妹校アスンタ高校	課題研究プレゼンテーション（英語）	2年2名	2年次生修学旅行
2月5日（水）	豊中高校	課題研究ポスターセッション	2年30名	豊中高校SGH発表会
2月6日（木）	豊中高校能勢分校	GS課題研究基礎講座 課題研究発表	1年30名	学習発表会
2月18日（火）	能勢小学校	課題研究プレゼンテーション	2年4名	能勢小学校環境授業
2月26日（水）	豊中高校能勢分校	GS課題研究基礎講座 課題研究発表	2年30名	学習発表会

他、上記6-(2)⑥において3年次生とともに参加したものもある。

⑦ 本校との連携

課題研究の過程で、本校と分校を遠隔ネットシステム（ネット教室）で繋ぎ、生徒同士で情報交換を行った。また、2月5日（水）に行われた豊中高校本校のSGH発表会に2年次生全員が参加聴講し、GS課題探究重点講座受講生は課題研究の成果を発表した。

⑧ 研究開発成果の普及に関する取組み

上記6-(2)⑦の通り、成果の普及の取組みを行った。

⑨ その他

ア「英語プレゼンテーション講座」

課題研究の内容に係る専門的な英語を学び、国際的な場において英語等で自分の考えを述べ、プレゼンテーションができる能力の養成を目的とした。また、ドイツ研修のためドイツ語講座も実施した。

対象学年	実施回数	講師名	参加人数	備考
2、3年	5回	ナトッチー・直子（英語）、谷村博美（英語）、アニヤ・スリワ（ドイツ語）	16名	火曜日、放課後
1年	6回	ティモシー・カーン（英語）	6名	土曜日

【担当者】

担当課	教育振興室高等学校課	T E L	06-6944-7093
氏 名	福本 美紀	F A X	06-6944-6888
職 名	指導主事	e-mail	FukumotoM0704@mbx.pref.osaka.lg.jp